

技術概要書（様式）

※別

出展技術の分類	☒ 安全・防災 ☐ インフラDX ☐ 維持管理 ☐ 環境 ☐ コスト ☐ 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	防水板（河川溢水対策用コンクリート板）	担当部署	営業部開発営業課
NETIS登録番号	CG-250027-A	担当者	山崎 雄一
社名等	小倉セメント製品工業株式会社	電話番号	090-6298-8657
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	近年、集中豪雨による河川の溢水被害が頻発し、住宅地等への浸水対策が急務となっています。従来、こうした対策に用いられてきた現場打ちパラペット（コンクリート製の立ち上がり壁）は、衝突荷重に耐えることができる構造物にする必要があり、工期も長く、コストが高いことが課題でした。「短期間で、安全に施工したい」。北九州市からのそうしたご相談を契機に、既設の防護柵を活かしたまま設置できる本技術を開発しました。		
	2. 技術の内容		
	本技術は、集中豪雨時の溢水に対し、流入水を抑制・遅延させることで避難時間を確保し、被害の軽減を図る技術です。既設の車両用防護柵（ガードレール等）の支柱に、専用ブラケットを用いてプレキャストコンクリート板を取り付け、簡易な止水壁を形成します。工場製作の既製品を取り付けるため、現場での型枠・配筋・打設作業を大幅に削減でき、防護柵を撤去せずに施工できます。（実用新案登録第3242487号）		
	3. 技術の効果		
・優れた経済性、安定した品質：人件費や機械賃料も抑えることができるため、現場打と比べ約半分のコストで施工が可能となります。また工場製造のため現場の天候に左右されず、安定した品質を確保できます。 ・工期の短期化、施工の安全性：型枠から養生までの工程が不要となるため、現場作業を短期間で完了できます。水際の型枠作業や重機作業も減り、施工時の安全性が向上します。 ・維持管理のしやすさ：溢水後の点検で位置ずれ等が確認された場合、該当箇所のみでの再設置や補修が可能です。			
技術の適用範囲	4. 技術の適用範囲		
	既設の一般的なガードレールが適用範囲となります。具体的には、C種以上の車両用防護柵（「防護柵の設置基準」に定める強度区分）が設置され、支柱間隔が2mまたは3m、かつ法肩部に5%以内の勾配を有する平坦部がある箇所に適用できます。パイプ高さや金具の形状を変えることにより、ガードパイプにも対応が可能となります。		
活用実績	5. 活用実績		
	福岡県 8件 愛媛県 1件 静岡県 3件 （2026年10月時点）		

6. 写真・図・表

